

第12回富山地区学校再編検討委員会次第

日時 平成22年7月27日 午後7時

場所 富山公民館 講義室

1. 開会
2. 検討委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 報告
 - (1) 第11回検討委員会報告について
 - (2) 平群小学校・幼稚園の存続を求める会との意見交換について
5. 議事
 - (1) 今後の再編の推進について
 - ① 施設整備について（資料1）
 - ② 再編方針案について（資料2）
 - ③ 再編スケジュールについて（資料3）
 - ④ 専門部会構成について（資料4）
 - (2) 第13回検討委員会の日程について（資料5）
 - (3) その他
6. 閉会

第12回富山地区学校再編検討委員会 会議録

平成22年7月27日(火) 19:00

会場 富山公民館 講義室

記録 黒川利也、川名裕子

1 開会

2 検討委員長あいさつ

新校舎建築に向け、子ども達のための再編会議にしたい。

平群小・幼の存続を求める会意見書について考えていきたい。

3 教育長あいさつ

7月9日、再編検討委員会の意見を伝えるということで平群小幼存続を求める会の方々との話し合い会議をもちました。

遅れているとは思っていない。慎重なうえにも慎重に会を進めていただきたい。子どものことを十分に考えて進めてほしい。いろいろな立場のご意見をいただきたい。

4 報告

事務局

(1) 第11回検討委員会報告について(資料1参照)

(2) 平群小・幼の存続を求める会との意見交換の報告(口頭で説明)

○7月9日午後7時00分、富山支所にて学校再編に関わる意見交換会を設けました。

参加者：教育長・学校教育課長・再編室職員2名・存続を求める会
会員10名

○統合の理解を深めるため、統合の必要性・経緯について説明

○統合することには賛成だが平群小がなくなることが問題、また通学距離が長くなることへの不安がある。(存続会の意見)

○市としては、距離への不安への対応について十分に考えていきたい。

統合は、子どもが少なくなることへの対応策でもある。様々な課題についていろいろな角度から解決策を考えていきたいが、存続を求め

る会の皆様との接点が難しい状況にある。今後、理解を深めながら推進を図っていききたい。

委員 平群・市、お互いの歩み寄り（接点）は、難しい状態である。統合そのものは反対していない。平群地区から小学校がなくなることには不賛成。平群地区に小学校を建設してもらうことは、不可能かというご意見をいただいたが市では、その件については、お預かりということで進めてきた。本会議でお配りしてある意見書も第1回と第2回では、かなり重複した部分もあり、今までの延長線上にあるものと考えます。平群地区の皆様には、統合についてまだまだ不安を抱えてられる方々がいらっしゃるよう思われます。今後も根気よくご説明しご理解をいただき推進を図っていききたいと思えます。

5 議事

事務局 設置要項の定めにより委員長に議長をお願いする。

委員長 本日の出席委員は19名であり、会議成立は成立する。

傍聴希望が出ているので、傍聴を許可する。（10名）

第1号議案「今後の再編の推進について」事務局より説明を求める。

事務局 今後の推進について、資料1の「施設整備について」をご覧ください。岩井小学校の耐力度調査結果を受け、市では、校舎建設に向け事業を推進していく方針である。校舎建設の標準的な実施スケジュールについて、平成22年度～平成27年度を考えており、本体工事は2ヵ年を見込んでいる。撤去する場合は、平成27年度を考えている。標準的工期を示させていただいているが、場合によっては、ずれる可能性もあるということをお含みいただきたい。新校舎ができあがるまでには、4年から5年かかるだろうと考える。

この検討委員会は小学校統合のための再編について協議する場であり、校舎建設の協議とは違う形で進む。しかし、双方とも有機的につながっているため、協議の中に話題としてでることもあると思われるが、2つの会議は分けて考えていききたい。

次に資料2の「再編方針案について」をご覧ください。

○再編期日（平成23年4月1日）の実現は無理。

・地域の合意決定が必要

・統合するための施設設備・閉校に関わる問題

もう少し先にターゲットを絞って進めていきたい。あくまでも地域説明会での案としておはかりしたい。ひとつの目処として目標として本日の会議でのご意見をいただきたい。

○施設整備に時間がかかる。(物によっては、1年以上かかるものもある)

○統合するには、地域住民の合意が必要。再編方針案をもとに地域の方々のご意見をちょうだいしたい。

○学校の位置や名称については、前回の会議結果をもとに確認のために資料にのせてあります。

③ 推進スケジュールについて(資料3)

○地域説明会では、統合の時期・学校の名称等をお示ししたが地域の方々からもう少し具体的なお話をしていただきたいというご意見をいただきました。今後は、専門部会(個別の組織)を立ち上げて進めていきたい。(校歌や校章・通学支援・PTA組織統合・学用品・学校カリキュラム行事の調整等の協議)

○地域説明会を実施し推進状況の方法でお知らせしていきたい。

④ 専門部会の構成(案)について(資料4)

○構成メンバーは、次回会議でご報告いただき、他地区(白浜・富浦)の例を参考にお示ししますので検討していただきたい。

○構成案(大きく5ブロック)

1:通学支援(スクールバス) 2:校歌・校章 3:学用品・教材

4:学校行事 5:授業カリキュラム(※4と5は、一体化)

6:PTA組織検討(※平群幼小PTA・岩井幼父母の会・岩井小PTA)

委員長

再編の期日・何年に統合かの、目安についてご意見をいただきたい。最初に資料の①と②について審議したい。

委員

確認

○新校舎建設の決定は感謝申し上げます。

○位置関係や建設に関わることについては、多少含めないと進まないのではないかと考える。多少、事務局のきめつけが見受けられる感じがする。

○利便・経費の面からみて岩井小学校が仮の学校としてよいのではない

かという意見と岩井小学校のあとに新しい学校ができるのではないかという心配をする方もいる。これから位置については、まったく白紙かということによろしいのかをうかがいたい。

事務局 校舎建設位置については、原案があるわけではなく白紙状態である。これから位置については、考えていきたいと思う。

委員 利便や密集地のことを考えると岩井ということも考えられるが、富山全体のことを考えると利便だけでなく環境問題いろいろなことを考える地域の意見を取り入れる必要があるだろう。こういった会議があるとしたら、地域のことをよく考えている方々も会の中にはいただき良い意見をいただきよりよい話し合いにもっていただけたらと考える。

統合についてある程度方向が見えてきたならまとめて提示していったらどうかと思います。

6部会に分かれてというと我々は、入っていない部分もあるように思われる。

学校・保護者関係で進めていくことが多いようなので、素案という形で進めていったらどうでしょうか。

委員長 その他のご意見はあるか。

委員 統合については、1年単位で考えたらどうでしょうか。平成24年というとすっきりする。当面は1年で考えたらどうでしょうか。新しい校舎建設スケジュールと切り離していくことは構わないが、存続を求める会の方々の意見（統合に反対しているわけではない。位置の問題）にどう解決していくのかについても考えなければならないのではないのでしょうか。存続を求める方々と平群と岩井の両者の意見を取りあげる機会を設定する必要があるだろう。

時期については、1年後の平成24年4月1日がよいだろうと思います。

委員長 建設委員会とは、異なるが再編会議の中で進捗状況について報告していく必要がある。

事務局 地域の方々のご意見を建設にあたっては、考えていきたい。現状は、白紙状態である。

委員 新校舎ができるまで使う岩井小校舎は、安全ではない。不安な校舎であることは、まちがいない。そのためできるだけ早く位置を決めてほしい。

危険な校舎に子どもをいたくなくない。新校舎に関する方もできるだけ早く着手する必要がある。

事務局 耐震は大丈夫という結果であるが耐力度に不安がある。

位置は、白紙の状態である。どういう所に建設していったらよいか地域のご意見を踏まえ市が中心になって進めていきたい。再編委員会にもその都度話していきたい。

委員長 次に再編方針案の時期についていかがでしょうか

委員 再編が遅れることで建設が遅れることはないのか。

事務局 市は、校舎建設については、今年度方針をたて建設場所等の調査をすすめる。

委員 岩井小は耐力度がない。富山小としての新築を考えているのか。岩井小は新しくなり、平群小はそのままかそこが不安

事務局 2校を新築ということは、考えていない。統合が土台であることを理解していただきたい。

委員長 ①統合目標時期は、平成24年4月1日とする。(決定)

②富山幼稚園・富山小学校とする。(決定)

委員 意見書2の中で、石井市長は「新校舎の建設を機会に統合を進めたい」としている。場所の選定で岩井をえらんだのだから平群はないというところが皆さんに誤解をもたれている点ではないのでしょうか。

委員長 その他のところでご意見を伺うことになっています。方針案のことについては、決定させていただきます。

事務局 耐力度調査で岩井小学校は、45年を経過している。年数がたち点数が4500点を下まわっている。老朽化は進んでいるが耐震性は担保されていると判断している。

委員長 再編スケジュールについて

委員 1年間伸びることを考えると推進スケジュールは、もう1年計画・実施案を考えていく必要がある。

統合の合意がとれても、具体的な内容は、その後数ヶ月は、時間がかかる。

事務局 平成24年4月までのスケジュールとして、準備期間が必要であり、次の事項などの調整が必要である。

○施設整備・通学支援・学用品・行事・PTA組織・閉校式等

○富浦と白浜の合併スケジュールの例によれば、合意がとれてから、準

備・行事に約1年間かかっている。

委員 白浜小に長尾小がくるから白浜小になる。平群小だけ閉校でなく、新たな富山小をつくるという意識である。場所がたまたま岩井小だけの話で、岩井小も閉校という考えではないのか。

委員 富山小になるという考えで今まで会議をすすめてきた。平群・岩井両方とも閉校が柱ではないのか。

教育長 両校とも閉校と考えている。新たに校歌も校章も新しくする。富山小学校になるということでご理解いただきたい。

委員 新しい建設地を決めておかないとどんどん遅れていくだろう。平成24年4月に行うなら建設地を早く決定しなくてはいけないだろう。

教育長 早く決定していきたい

委員 両方とも同じレベルで進めていかなければいけない。再編・建設を同時進行に近い方向で市のほうも考えてほしい。

委員長 資料の③と④については、このように進めていきたい。

次に第2号議案「第13回検討委員会の日程について」を議題とする。

事務局 9月中旬・下旬を予定したい。場合によっては10月上旬。→後日連絡専門部会の多くは、保護者の方を予定している。→市で構成
※平群・岩井同数で保護者にかかわるメンバーを8月から9月上旬に決定
※メンバー構成(検討委員会のメンバーを1名配置。岩井・平群の保護者・理事等が入る。)

委員 建設委員は、こういった形で選出されるのか。

事務局 要望をふまえ、建設委員を決めたい。

委員 試案はあるのか。

事務局 試案の作成は千葉国体9月23日・24日すぎから検討となるだろう。

教育長 現段階では、まだそこまでいっていない。建設委員を立ち上げるか・立ち上げないかは未定ですし、何らかの形で地元のご意見をいただきたいと考える。

委員 9月の末の段階で話し合われた結果がでるのか、立ち上げるのか・立ち上げないのか。市で話し合った内容は示してもらえるのか。

ワザンバー 再編と建設は別だから、はっきりと区別すべきである。

教育長 建設委員会と再編検討委員会は、あくまでも別組織である。

建設委員会ができあがらなくても皆様のご意見はなんらかの形でうか

がい検討し進めていく。

委員長 次回は、9月末を予定したい。

その他、存続の意見書について、その②ということでいかがか。

委員 確認だが、先ほどだされた委員からの意見で存続を求める意見書のまとめの部分で、岩井を選んだから平群には建設しないというところは訂正をということでよろしいか。

事務局 その通りです。

委員長 その他なにかあるか。

委員 平群に校舎を建てるとしたら地理的要件・通学方法の部分で岩井の人から異論がでるだろう。平群だとか岩井だとか考えてきたつもりはない。立地条件が難しい。

委員 去年2回12月と2月に地区民と意見交換した後、会議をもっていない。地区民と保護者が話し合う機会を設けないと進まない。両者がわかり合うという課題がある。

委員長 なるべく早い時期に設けたい。ご審議ありがとうございました。

事務局 以上で会議を終了する。